

29日自然第67号
2017年11月16日

内閣総理大臣	安倍 晋三 様
内閣官房長官	菅 義偉 様
国土交通大臣	石井 啓一 様
防衛大臣	小野寺五典様
環境大臣	中川 雅治 様
沖縄・北方担当大臣	江崎 鐵磨 様
沖縄防衛局長	中嶋浩一郎様

公益財団法人 日本自然保護協会
理事長 亀山 章



日本政府による米軍普天間飛行場代替施設建設事業における海域に生息する
希少サンゴ類の生息状況の把握と石材の海上搬入に対する要望

米軍普天間飛行場代替施設建設事業（以下、「同事業」）について、今年9月に引き続き今月上旬に新たに希少なサンゴ類を発見したことが報じられた。また、国頭村奥港および本部町本部港から同事業に用いる石材の積み出しと搬入を開始したことも報じられている。日本自然保護協会は、生物多様性豊かな自然環境の保全に取り組んでいる立場から、以下の事項を要望する。

同事業の環境影響評価は2013年2月に完了し、事業者は事後調査等の位置づけでサンゴ類の分布などの調査を継続している。しかし今年9月の報告に引き続き、今月上旬に更なる希少サンゴ類の群体が発見された（NHK、11月14日）という事実は、事業者のこれまでの調査ではこの海域のサンゴ類の分布状況を十分に把握できていないことが示唆される。

サンゴ類の群体は突然生じるものではないことから、これまでの調査で確認されなかったのは、調査が不十分であったためと考えられる。事業者は直ちに調査を中止し、海域のサンゴ類の調査をより丁寧に行い、海域の現状を正確に把握すべきである。

また、沖縄県が出した港湾使用許可を受けて、同事業に用いる石材を国頭村奥港および本部町本部港から積み出し、辺野古への搬入を開始すると報じられている。これらの港から辺野古への船の経路は、かねてから日本自然保護協会などが指摘してきたように、ジュゴンが移動するルートや、餌場として用いている海草藻場の至近距離に位置する。そのた

め、現在でも生息数が少なくなっているジュゴンを中心に脅かす可能性が高い。折しも 8 月 25 日から 9 月 30 日までの期間に、ジュゴンの鳴き声が辺戸岬で 176 回、安田地先海域で 4 回、沖縄防衛局の調査で記録され（沖縄タイムス、11 月 14 日）、ジュゴンが確実にこの海域を利用している根拠が得られたばかりである。

奥港や本部港は、世界自然遺産推薦区域（予定地）および緩衝地帯(予定地)の外ではあるが、至近距離に位置している。世界自然遺産候補地の自然を守るためには、緩衝地帯の外も含めて沖縄島北部一帯を森から海まで守ることが必要である。さらに、これまでの国内の世界自然遺産登録事例では、IUCN の勧告により推薦区域および緩衝地帯を拡大したことが多いことから（吉田、2008）、緩衝地帯付近を開発することは世界自然遺産登録にも支障を及ぼす可能性がある。

上記の理由により、以下の 2 つを求め、日本の財産である沖縄の自然を保全していただくことを要望する。

- 1) 事業実施区域のサンゴ類の分布を正確に把握すること
- 2) 奥港および本部港の利用を停止すること

以上

参考：吉田正人（2008）世界遺産条約と生物多様性の保全『地球環境』13：15－22